

第3回 伊丹市環境基本計画（第3次）の策定に係るいたみ環境市民会議

会議録（要旨）

日時：令和2年7月14日（火） 午後2時～4時

会場：伊丹市消防局 2階 研修室

出席委員：森委員・新宅委員・小田委員・永田委員（住友電気工業）・芝田委員（三菱電機）

1. 開会

(1) 事務局あいさつ

(2) 資料の確認

次第

資料① 委員名簿

資料④-4 良質な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち

資料④-5 環境意識と協働の輪が広がるまち

2. 事務局より説明及び議論

(1) 基本目標「良質な都市空間の整備と生活環境が保全されるまち」について

【資料④-4に基づき、事務局より説明】

【質疑】

(委員) 事業活動をする上で、地域の住民の方々に騒音や悪臭等生活に支障がないよう最大限配慮しなければならないと考えている。設備メーカーや装置メーカーの方でも低騒音型や省エネ型などの機器が出てきているので、特に大きな影響は、伊丹市では減ってきているのではないかと思う。敷地境界で騒音の測定をしていますが、バスや車の音の方が大きいくらい、静かな工場の運営をお願いしている。気になるのは、地域の方々からの苦情である。工場の周辺の住民の方々がどう感じているのか、情報交換が日々できれば良いのではないかと思う。それぞれの事業所においても色々苦勞して頑張っているのだから、その周辺の住民の方と行政と事業所の人と一緒にやっていく方法を考えないといけないと思う。

施設等の更新時に低騒音や悪臭の小さいものに更新する場合には何か補助をする、低金利で融資するなど、すでにあるのかもしれないが、そういう制度があればよいと思う。

→ (事務局) 工場は地域との融和を図りたいのだが、市民の立場では、その工場が何を作っているのかわからないことに対する不安が一番大きい。そこで、

工場見学を勧めている。セキュリティの問題もあると思うが、できる範囲で見せてもらえると市民も安心するし、何か良い方法がお互いにわかるかもしれない。そういうことをしていただくとありがたい。今、工場が一番進んでいて、昔のように基準を守ればよいというのではなく、ゼロエミッションとって、汚染物質の排出をなるべくゼロにするよう、苦勞されている。それを分かってもらいたいというのものもある。

施設については、詳しくはわからないが、特定施設を増やして、今までの数から大幅に増えた場合、固定資産税の優遇措置等もあったと思うので、資産税課などに問い合わせてもらえればよいと思う。今なら、太陽光発電や蓄電池を導入すると県の融資制度等もある。

(委員) 三者協定により、2か月に1回測定し、市に報告していて問題はないが、最近多いのは、在宅勤務の方が増え、日中在宅しているとフォークリフトのバックするときの警告音や倉庫等でのメロディ音が耳につくという苦情の電話である。コロナの影響で、5月、6月頃に数回あり、企業としては、苦情があった以上、基準を満たしてはいるが対策はしないといけないので、フォークリフトを全て調べ、音量を下げるといった対応を行った。

→ (事務局) 市の方にも、自粛期間中に何件か、日中いなかったのが気にならなかったが…という電話があった。きちんと対応していただいて、ありがとうございます。

→ (委員) 匿名なので、結果がどうなったかは聞くことはできないが、工場内ではフォークリフトが動くと危ないので、危なくない範囲で指導はしている。

→ (事務局) 安全を確保していただくのが大前提だと思う。

→ (事務局) お話を聞いていると、基準を守るのは当たり前で、それにプラスアルファの配慮をしていただいている事業者さんも増えている。そういうスタンスはこれからも高めていけるよう取り組んでいただければと思う。

→ (委員) 中小、小さいところに配慮できるような仕組みがあれば良いと思う。

(委員) 支援の話で、施設の新設をしたときに企業立地か何かで申請したら税金が減免されるということを初めて知り、申請した。

→ (事務局) 企業立地支援制度、商工労働課で行っている支援だと思う。

(委員) 今年から一斉清掃がなくなった。何か理由があるのか。

→ (事務局) 地域の清掃が活発になってきており、改めてこの日に一斉清掃をするというと、その前に掃除をしてくれたりする。せっかく集まったのだからと草むしりをしてくれたりするが、目的が違ってきている。地域の方でやっていただけるようになったということで、数年前から課題となっており、今年から、コロナの影響は関係なく、地域での清掃にすることになった。

- (委員) 地域清掃は、自分の住んでいる地域で行われている様子はないが、小学校単位で実施されているようだ。地域の方々だけではなく、子どもたちを巻き込んでいけたらと思う。
- (委員) 高齢化が進んでいて担い手不足というところは、学校も巻き込んでやっ
ていかないといけない。
- (事務局) 一斉清掃の時は、ボーイスカウトやガールスカウト、野球チームの子た
ちに参加してもらったりしていたが、今後、地域で行う場合にはどうして
いくかというのがある。
- (事務局) 小学校単位で行う場合は、PTA が主体となっているのか。自治会単位の場合
は、自治会の役員の方が主体となって行っていると思うが。
- (委員) その形も変わりつつあり、PTA が機能としてそれでいいのかとか、地域と
PTA と学校が一緒になって何かできないかという方向になってきているの
ではないかと思う。
- (事務局) 伊丹の場合は、自治会単位での取り組みが多いと思う。自治会も、若い
人が多い自治会と高齢の方が多い自治会で分かれてきてしまい、高齢の方
が多い自治会の方が地域のことを色々やってくれる感が否めない。新しい
人が多く、若い方が多い自治会は、まとまるのが難しいようだ。ただ、そ
れなりに、地域清掃はやってもらっているという感じはある。
- (委員) 自治会の人はまだ元気なのだと思う。その方々も高齢化が進んでいるの
で、もうそろそろ無理ではないかといったときに、学校と親と地域で一緒
にしようかという方向になってきている。
- (委員) 最近、カラスが多い。カラスの対応は何とかならないか。波板をしてきちんと
してくれているが、カラスは学習して開けてしまう。
- (事務局) コロナの影響もあるかもしれない。自粛期間中、家庭ごみが増えている
こともあるが、職員が半数になり、積み残しの連絡が多くあった。また、
今の季節は、カラスの子育て期間中でもあるので、威嚇しているというの
もある。
- (委員) 対策を考えないといけないということだと思う。多くなってきているの
で、何か対策がないか。
- (事務局) 波板で箱を作ってふたをするのが一番良い。入れないと分かれば、場所
を変える。
- (委員) 近所の方で、ごみがある間はずっと見てくれている人がいるが、ちょっ
と家に入ったすきにカラスが来ているという感じになっている。蓋をして
いても、上手に開けてしまう。
- (委員) 171 号でいつも草が茂っていて信号が見えないところがあるが、今朝、雨の中、
草刈りをしてくれていた。あれは、国交省か。

- (事務局) 国交省の 171 号の補修の街路樹の剪定工事である。
- (委員) どこかから危険だと通報があつてのことか。景観のためなのか。景観で感じたことだが、きちんと整頓され、ごみのないのが伊丹の自慢する景観なのか、こういう雑草などをきちんとして、これも市民の安心安全だと思う。市民の身の危険を感じる場所は早急に対応してほしい。以前、除草剤を撒かれたこともあるが、跡が汚い。やはり刈り取ってほしい。
- (事務局) 景観や安全面で気になったときに、どこに問い合わせればいいのかわからない。何か気になったときにどこに問い合わせをしたらいいのかすぐにわかる仕組みがあれば、気づいた人が言いやすいかもしれない。
- (委員) 広報か何かにそういう記事を書かせてもらえると良いと思う。
- (委員) 自転車道路の件だが、幅は、仕方がないのかもしれないが、大きな車が通ると怖い。自転車道と書かれている舗装がでこぼこしていて自転車で走行しづらい。どうにかならないか。
- (事務局) 路面標示の凹凸については、滑りにくい素材を使って舗装していたり、消えないように厚みがあったりするようだ。行政の方で、もう少し快適に走行できるような手法がないか研究する必要がある。
- (委員) バイクに乗る際に、どちらを通ったらいいのかわからない。
- (事務局) 黄色のところは双方向、右側でも通行ができる。青色のところは左側通行のみ通行可能。バイクは、自転車道は通れない。
- (委員) 逆走してくる人も多い。子どもたちへの指導は、学校などではかなりできていると思う。我々世代の人たちで知らない人たちがかなりいる。そういう人たちに周知する良い方法はないのか。
- (事務局) 事故があり、安全教育など検討していたが、高校での安全教育がカリキュラムの問題もあり難しいようだ。
- (委員) 放置自転車対策だが、放置自転車数もあるが、ラックの稼働率についての数字はないか。阪急伊丹駅などに設置されてきているが、ラックがどのくらい利用されているのかも気になるのだが。
- (事務局) 細かい数字は、多分出ているとは思いますが、ここではわからない。
- (委員) 昔は、放置自転車で撤去されるということが多かったが、減ってきているように感じるので、改善されてきているのだと思うが、それを示す指標として、ラックの稼働率が上がっているから放置自転車の台数も減ってきているのではないかと思ったのだが。
- (委員) 普段、駐輪場を利用しているものとしては、空いているラックがどこにあるのかわかりづらく、探すのが大変だ。例えば、「満車」など、空いていないのが分かるだけでも随分違うのだが。「ここが空いている」というのが分かるものがあると使いやすい。

(委員) 景観に対する満足度のところで、ポイントの出し方を教えてほしい。どういう人たちの評価なのか。

→ (事務局) 市民意識調査で、5段階評価してもらったものの平均を出している。3.75なので、まあ良い方かなということではある。対象は無作為に選び、市民にアンケートを行って回答いただいている。

(委員) 以前、地震でブロック塀の事故があった。それからブロック塀をやめて別の塀にしているところも増えている。それがいい景観なのかかわからないが、生け垣にすると市から予算が出るのか。ブロック塀でも鉄柱のあるものないものがあり、その辺、景観ばかり言わず、安心安全というところでもう少し市でも徹底して指導してほしい。

→ (事務局) 建築基準法だったと思うが、ブロック塀は何メートルかおきに支えが必要であり、公共施設については確認し、不適合なところはやり直しをした。市民所有のものについては、もう期限が切れていると思うが、一定の補助をするのでやり直してくださいという依頼をし、相当数の方に対応していただいたと聞いているが、全体の何%かまでは把握していない。

→ (委員) 生け垣だけにすると予算が大変だし、植木の剪定をするのが大変なので、どうすれば景観が良くなるのだろうか。

(2) 基本目標「環境意識と協働の輪が広がるまち」について

【資料④-5に基づき、事務局より説明】

【質疑】

(委員) ずいぶん前になるが、「エコバスツアー」というのをやっていたことがあり、うちの事業所にも来てもらい、ごみの減量や分別等の話をしたことがあるが、そういうのはまた行われるのか。

→ (事務局) 社会の教育等で工場見学などがあるが、子どもが興味を持つのは食べ物であったり、何かもらえると喜ぶというのはある。エコバスツアーといって、子どもを何人か連れて事業者を回るという活動を、兵庫県でもやっているが、大人の工場見学などもあり、他の会社でどういうことをやっているのかなど知る機会でもあるが、そういうところで連携できることが何かあれば良いと思う。三菱さんがやっている生物多様性の話であるとか、市民との連携した取組などをもう少し市の方で知ってもらおうとか、市の広報でもっと取り上げるなどして、クローズアップをして認知度を上げていくという方法はある。事業者さんを含めて、市を支えている一つと考えると、どこがだめになっても伊丹市の存続が難しくなってくるので、将来どのようなまちになっているかは皆さんにかかっている。

(委員) 環境教育は結果がなかなか出ない。昔に戻すために、あるいはこれから悪くならないように、今私たちが考えましょうというような環境教育、SDGs などまさにそうだが、今やったからといって、すぐに来年どうということではないので、何か違う教育のアプローチをしなければならぬと思う。子どものうちからいろいろする、我々もそういう意識をもって普段から色々な接し方をするなど、刺激を受けることも教育の一つではないかと思うのだが、なかなかゴールの見えないのが環境教育だと思う。「生きものマイスター」やいろいろな講座などで、環境のことを知っている人はものすごく知っていて、そういう人たちの知識をどのように活かしていくか、反映していくかが環境教育の面白みではないかと思う。すぐに結果が出ない、利益が出ない、点数が出ないのが環境教育なので、我々が次にどういう取組をしようかと考えた時に、やはり地道にやっていくしかない、ことば蔵を使ったり、スワンホールを使ったり、昆虫館を使ったりしながら、絶えずアプローチをし続けていく。環境ポスターも子どもが減って年々減ってきているのは仕方がないが、やり続けなければいけないと思う。ただ、パソコンで作ったり、画面に映すと何か募集の方法を変えたり、仕組みを色々変えていって、かつ次の何年か後につながるようなことができないか。事業所でも同じようにそれをやっていかなければならない。中小企業同士で連携して何かできないか、我々が中心となって地域の会社と何かできないかとかも考えていかなければならない。そういうアプローチの仕方がこれからの環境教育で必要ではないかと考えている。

→ (事務局) 環境ポスターを自社で職員の研修の場として貼っていただいている会社はある。1社だが、社内教育の場で環境ポスターを貼らせてほしいという申し出があった。

→ (事務局) 環境というのは地道にやらなければならない。植樹にしても、植えた時は子どもでも大人にならないと花が咲かない。ウメ輪紋病で伐採した梅林跡地に桜を植えているが10年以上かかる。何かやろうと思っても、すぐには結果が出ない。

(委員) 配付していただいた「環境カレンダー」は無料でもらえるのか。

→ (事務局) 今年度で終わりであるが、無料で配布している。

→ (委員) よくできていると思う。これを使って何かできないのか。

→ (事務局) 環境家計簿の派生したものであり、事業としては続くが、冊子を作るのは今年度で最後となっている。

(委員) 環境リサイクルフェアは今年度からなくなるのか。

→ (事務局) 今年度はしない。来年度からはクリーンランドで行うという話になっている。

→ (委員) 市が主導で行う環境を考えるイベントは、今年度はなくなるというのは

聞いているが、来年度以降はどうなるのか。

→（事務局）アースデイいたみについては続けるつもりでいる。来年はまだどうするかは決まっていないが、コロナの関係で、来年どうできるかというのは何も言えない。

（委員）「こどもエコクラブ」に登録している小学校はどのくらいあるのか。鴻池小学校と天神川小学校くらいしか認識はないが。

→（事務局）現在、小学校で登録しているところはない。個人の家族で2団体くらいあるだけとなっている。

→（委員）そういうのをもっとPR、勧誘していけば良いのでは。文科省で予算を出して、地域の子どもたちを自然の中で遊ばせるというのがあるようだが。何が問題なのか。指導者がいないのか。

→（事務局）理科の先生に依存している。科学系の小学校の先生があまりいない。

→（委員）科学的でなくても、子どもだから自然の中で遊ばせるだけでも良いと思う。子どもが自然に集まってきて、活発に、自然に、環境に興味を持つような仕組みは、どこに持っていけばいいのか。企業、行政、市民が手をつないで何かやろうという意見が出てきても良いのではないか。

（委員）これだけの取組内容をきちんと書いていて、我々も実践していかなければならないと思うが、全体のPRが少ないと感じる。去年の4月から1年ちょっとの間の広報を見て、どれくらいの啓発ができているかを確認してみたが、そういう啓発記事はほぼない。講座の案内が小さい記事で掲載されている程度である。COOL CHOICEも皆さんこれだけやっているが、何を意味しているのかということも含めて、もっと市民に啓発してもいいのではないか。紙面は決まっているのかもしれないが、時にはもう1枚入っている場合もある。こういう大事な啓発は、もう少し大きな面でやってもらえたら、市民はもっとわかるのではないかと思った。何を意味しているのかということをしかりと皆さんに知らせてもらえたらと思う。我々は少し関わっているので、皆さんがCOOL CHOICEの服を着ているのもどういう意味があるのか知っているが、ほとんどの市民の方は知らないのではないかと思う。それが地球温暖化対策につながっていくのだということ。

→（事務局）こちらからのお願いとしては、啓発活動で経費をかける場合に財政部局から、啓発した効果はどうかということを問われる。環境というのは時間がかかるため、それを言われると何もできないのだが、外圧があると変わってくる。市民の方からのニーズがあると一番良い。こんなことをしてほしいという声があればお願いしたい。事業者さんと一緒に環境のことをしたいという声をいただければ一番ありがたい。

→（委員）広報の話が出たので提案だが、広報は広報課が編集するのだと思うが、広報は市民のためにあるものだから、もう少し市民が興味を持って知りた

いと思うことを挙げてもらわないと意味がないのではないか。三者会議のようにして、広報課だけではなく、いろいろな人が集まって編集する部分、1面だけでもそういう編集会をしてまちの人の声を拾い上げるような紙面が欲しいと思う。

→ (事務局) 紙面の大きさもあるが、見てもらえるかどうかというのは結局内容である。我々が一方的に考えるというのもあるが、皆さんの目線で、こういう内容でというのをご意見いただいて、それを広報にも反映できればと思う。広報の内容を皆さんと一緒に考える場を作るというのも新しい取り組みで良いと思う。市民の意見を広報に載せているというのは他にないと思うので、そういうことが環境部局でできればと思う。

(委員) 環境に関して、いろんな技術、能力を持った人が沢山いると思うが、そういう人が、どういうメンバーが、どういう団体がどういう活動をしているのかというのをもう少し把握できれば良いのではないかと思う。我々も含め、知りたいと思う。市民の皆さんも分かればもっと学習意欲がわくかもしれない。ボランティア団体もたくさんある。

(委員) 「市民団体と事業者の年間活動状況」のところで、「学校に環境体験学習が浸透している」とあるが、具体的にはどのようなことか。何をやっているのか。具体的な内容は把握していないということか。

→ (事務局) 学校の方から出してもらっている資料になるが、学校のカリキュラムの中で3回はやらなければならないことになっているが、3回以上やっているとところもあるということを示している。17幼稚園あって、園によって回数は違うが、3回はやっている。内容はそれぞれだが、ほとんどが外に行って、昆虫館を見に行ったり、田んぼみたいなことをしたり。里山、田畑、水辺など地域で各々活動しているので、先生に託している。

→ (委員) 自然の中でできることがもっとあるといいと思う。昆虫館に行くことは良いことだし、それはそれでいいと思うのだが、自然の中でいくだけでも活動はできると思う。そういうところで活動できる人をもっと育成しないといけない。

→ (事務局) 過去には行われていた活動が、人が変わるによりなくなってしまうことも多い。人に依存しているというのが大きな問題である。

(委員) 鳥が好きでバードウォッチングをよくするが、最近鳥が減ってきているように思う。それに伴って、虫が少なくなっているというのもよく聞く。特にミツバチが減っているらしい。

→ (事務局) ハチについては、特定の薬品でミツバチが死んでしまったというのが今わかっているので、その系統の農薬は規制されつつある。

→ (事務局) 昆虫館で養蜂をしているが、ニホンミツバチは昨年からは養蜂がうまくい

っていないというのは聞いている。鳥については、カモの数が減っており、全盛期の10分の1くらいになっているので、数自体が減っているのがわかる。これについては、カモの餌を含んでいる水田地帯が減ってきているのが原因の一つだろうと考えている。数は減っているが、目撃できる種類に限っては、阪神地域で見られる鳥の種類はほぼ伊丹で見られるので、生息種類については変わっていないと考えている。カラスについては、数年前の鳥インフルエンザで3割程度減少し、その後、増加していないので、一時期に比べれば減っているといえる。

(事務局) 人づくり、人材育成のところで、市民団体さんの成り立ちなど参考に教えてもらえないか。

- (事務局) 最初は「アースデイいたみ」で、ケナフで紙を作るというのをされていたと思うが。
- (委員) 早く成長するし、CO₂をよく吸うからということで道路に植えて、排気ガスを吸うとかいうところから始まった。
- (事務局) 生態系というよりは、公害から身を守るためにはどの植物が良いのかということから始まっている。
- (委員) 「アースデイいたみ」は伊丹で最初に公民館で講座を持たれ、同好会として地球環境のことを考えようという講座を持ったり、畑で芋煮会をしたりというところから始められた。並行して、初代の会長が八幡の方に環境マネジメントシステムの見学に行かれたりした。またその前の1998年に市民団体が21くらい集まり、環境に関するものを何か作ろうということで始まったのが「環境ネットワーク」である。アースデイいたみも今回、21回目で、80%くらい仕上がっていたので残念だったが、環境保全課にもお世話になり、協力団体にも協力していただいたのだが、企業にもやはり応援してもらいたい。我々も市民として、企業がどういうことを、工場内の緑化のことや地域への貢献やごみの問題などどのようにされているかを訪問して聞きたいというのが去年からの始まりだった。
- (事務局) 人の出入りについてはどうか。発足時から増減があると思うが。
- (委員) 発足時からあまり変わらない。そのため、高齢化が進んでいる。
- (委員) 「食 de つながろう」は、市民企画講座で食に関する講座に参加したメンバーで、食に関することができないかということで集まった有志で始まった。活動の目的は、今はフードドライブがかなり大きくなってはいるが、子どもたちに食べることの大切さを伝えることもやりたいと考えている。最初は6人だったが、地道に活動し、5年目に入り、徐々に増えている。特に昨年多く、新しく5名入った。色々なスキルを持った方が参加してくれている。環境の話は、わかっているが自分がアクションを起こすのはな

かなか難しい。もっと暮らしの近くで活動ができれば、もう少し自分事としてとらえてもらえるのではないかと考えている。子どもは、大人がどう行動しているかということをよく見ている。企業がどのように環境に配慮しているかということ子どもにもっと見せられたら、もっと子どもたちも真剣に考えてくれるきっかけになるのではないかと考えている。

(委員) 環境ポスターの件で、食に関するテーマのポスターもあったと思うが、市民団体の活動の中でそういうポスターを掲示させてもらうなど、別の方法で生かすことはできないのか。

→ (事務局) 生活環境課が所管のため、食ロスに関係するポスターを貸してほしいということであれば伝えるが、使用できるかどうかまではここでは確約できない。事業所でもお願いできているので可能だとは思いますが、そういう連携ができればよいと思う。とても良いことだと思う。ただ、どのように保管しているのかはわからない。

→ (事務局) 環境ポスターに限らず、いろいろなツールが行政の方にあると思うので、それらを適宜、活動の中で使っていただけたらいいと思う。

3. 閉会

今回の会議をもって終了

以上